

読書のすゝめ

その9

H 28 5 / 23

第62回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

感動を文字で伝える

「夏休みの宿題」となると、どうにも心が重くなりそうですが、手にした本が、自分を知り、自分を変える運命の一冊になることがあります。その一冊となる本を探すお手伝いとして、課題図書が選ばれています。今年度のテーマは『読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。』です。感動した一文について、書くこと（表現する）で再確認してみましよう。すでに3冊とも配架しています！



『タスキメシ』 額賀滯（小学館）



箱根駅伝「花の二区」。鶴見中継所ではトップでたすきを受ける眞家春馬には1歳上の兄、早馬がいる。早馬と春馬は同じ高校の陸上部に所属し、兄弟揃って長距離を走っていた。早馬は高校3年のとき、ひざを故障し陸上から離れてしまうが、生物の教師稔の計らいで料理研究部の井坂都から料理を習うようになる。

早馬、春馬、都。兄弟の相克や陸上への情熱、料理への愛情、そして友情。それぞれの思いを軸に物語は展開する。

（部活動を通して自分を見つめる姿、兄弟の相克、友情など身近なテーマで、登場人物と自分を重ねることで自分を考える端緒となる作品。）

『ハーレムの闘う本屋：ルイス・ミシヨアの生涯』 ヴォーランダ・ミシヨア・ネルソン（あすなる書房）



1939年から75年まで、ニューヨークのハーレムに、黒人の手による本を扱う黒人のための書店があった。そこはニューヨークでの黒人文化を支える拠点であり、黒人に対する知識提供の源泉であり、情報のハブであった。人々が集い、学び、語り合った。本5冊と所持金100ドルから始めた書店はやがて22万5千冊の在庫を持つに至る。

その店主ルイス・ミシヨアの伝記。黒人差別の中、社会の流れに翻弄され、それに抗うミシヨアの人生を描く。

（アメリカの黒人差別の実態や歴史、差別解消運動も一様でなく様々な考え方があったことを知り、差別の無意味さや民族性保障の重要性を考えるきっかけとなる作品。また、本が文化や知識の源泉であることがわかる。）

『シンドラーにすくわれた少年』レオン・レイソン（河出書房新社）



「シンドラーのリスト」に載った最年少のユダヤ人であるレオン・レイソンの生涯の記録。ポーランドでは多くのカトリック信徒に交じり、ユダヤ人たちが普通の生活を送っていた。レオン一家も裕福ではなくとも平穩に暮らし、彼はポーランド人の友だちと遊ぶ日々だった。

ナチス・ドイツにより状況は一変する。ゲットーへの強制移住、絶滅収容所での死と隣り合わせの毎日。レオンは父とともにシンドラーに救われる。

（著者の過酷な体験を読むことにより、人の心を変えてしまう戦争の怖さ、過剰な民族主義の愚かさについて学び、現代社会を考えて欲しい。）

※県東地区読書会に向けて（会場・・・麻生高校）

6月1日に麻生高校において県東地区生徒図書委員会が開催されます。1年生3名が参加しますが、午前中は読書会で、次の3冊が課題図書になっています。



- Aグループ 『本屋さんのダイアナ』 柚木麻子（新潮社） 担当校 鹿島高校
- Bグループ 『羊と鋼の森』 宮下奈都（文藝春秋） 担当校 潮来高校
- Cグループ 『タスキメシ』 額賀滯（小学館） 担当校 麻生高校